

## 第6回東北スポーツボランティアサミット報告



- 会場  
基調講演 仙台市東北大学さくらホール 分科会 宮城スタジアム 競技運営室  
懇親会 宮城スタジアム 6階展望室 ボランティア体験 セキスイスーパーアリーナ
- 留意事項  
1月30日(土)は、bjリーグホームタウンミーティングと共催  
1月31日(日)は、bjリーグオールスターゲームにて活動

---

---

### 基調講演「bjリーグの過去・現在・未来」 bjリーグコミッショナー 河内 敏光 氏

13:10 ~ 14:00



bjリーグコミッショナーの河内です。球団を運営するのはプロのスタッフですが、私はそこにボランティアがいないと運営出来ないと確信しています。まずは皆様に御礼申し上げたいと思います。その上で皆様には自分たちが支えているという意識をもって、地域やチームを支えていただきたいのです。更にボランティア同士の交流も大切にしていきたいと思います。

さて、まずはbjリーグというものについて知る為に映像をみていただきたいと思います。

【 bjリーグ 09-10シーズン観戦ガイド DVDにて10分ほど鑑賞 】

ここからは配布している資料から説明します。bjリーグは2005年に日本のバスケット界の改革をめざしてスタートしました。それまでバスケットボールをする子供達は多いものの、トップに近づくにつれて同じアジアでも力の差が開く傾向にありました。そうした状況をふまえ、サッカーのJリーグを参考に「普及・強化」を目標とし、魅力あるプロリーグとして立ち上げました。アジアでも多くの国で93年から95年にかけてプロリーグがスタートし、一方国内では有力なJBLのチームが親会社の経営不振に伴い撤退する状況があったのです。

日本のスポーツマーケットは人口とGDPから見て1兆6千億円とみることができ、現在のマ

ケットは3千億円程度ですので十分潜在的な市場が残っていることもリーグ立ち上げの要因となりました。更に世界のバスケットボール人口は4億5千万人といわれ今急激に増えているのです。それはバスケットが中国でNO. 1の人気スポーツだからです。また、オリンピックで最も人気のあるチケットもバスケットボールであり、最高峰アメリカのNBAの選手たちで構成するドリームチームの参加が影響しています。それほどバスケットはメジャーなスポーツで、国内では440万人の愛好者がいるとされていますが、協会への登録はそのうち67万人に過ぎません。私達はもっともっと底辺の拡大に取り組む必要があります。

さらにバスケットボールの特色をいえば、男女のバランスが良いことがあげられます。日本中学校体育連盟の調査では男性52%、女性48%という結果でした。次にバスケットボールはサッカーや野球がほぼ終わる冬のスポーツといえます。地域にバスケットボールチームがあれば年間を通じて応援できる体制が出来上がります。しかし、まだまだ新聞の一面を飾るだけの力はありません。近い将来アーナスポーツが一面に掲載されるようにしていきたいと思えます。



bj リーグは2005年11月5日に開幕しました。そこまでは様々な人々の協力がありました。他のスポーツのトライアウトと違い bj リーグでは参加者から申し込み金をもらって開催しています。それでも長く挑戦し続けてくれる人がいることで、リーグの立ち上げが正しかったと確信しました。

リーグでは bj リーグ宣言として「プロフェッショナル」「スポーツ・エンタテインメント」「グローバル&コミュニティ」という3項目を掲げ、さらにより具体的な7つのビジョンと20の実践を決めています。それは会議などで迷ったときに立ち返るところです。発足時6チームだったリーグのチーム数は現在13チームに増え、2010年シーズンからは16チームとなること決定しています。この結果、観客数もテレビの中継も増えていて、特にテレビは地方から中央への流れによって、BSフジにバスケット番組が出来ました。

一般にバスケットボール選手は背も高くカッコ良い為20代から30代の女性に人気が高いようです。また、観客の半数はバスケットの経験がないというデータもあります。今後の目標としては、子供達のゲームを会場で行う機会をぜひ増やしたいと思えます。

リーグ全体では2014-2015シーズンに24チームとし、今季は100万人の観客見込みを200万人にしたいと思っています。また、アジアを中心に国際交流を増やしたいと考え、2006年からは韓国とチャンピオンシップゲームズを開催しています。社会貢献活動としてエコ活動に取り組むほか、チームがテクニカルファールを1回する度に5,000円をもらい、地域のバスケットボール協会などにグリーンボールを寄付しています。

これからも他のアーナスポーツと一緒に未来の子供達に選択肢を与えていきたいと思えます。

基調講演骨子 文責 KI

## 第2分科会 第1班「プロスポーツとボランティア」 宮城スタジアム競技運営室

15:30～17:00

参加者 24 人（男性 17 人、女性 7 人）が 5 グループに分かれて討議しました。

第一G：6 人、第二G：4 人、第三G 5 人、第四G 4 人、第五G 5 人

### ◆ 仙台の活動紹介 グランディ・21 ボランティア 村松 淳司



討議する為に仙台のボランティア活動を参考に紹介します、仙台のキーワードはエコ活動であり、又分別活動がうまくいっています。このためにはチーム運営との連携が不可欠ですが何処の場所でもごみ分別は全く同じです。つまり、短期的にはデータ蓄積であり、中期的にはリサイクル、長期的には環境配慮であると考えています。

スポーツ観戦に行くと環境によい仕組みは、運営経費がおさえられますし、これはボラしか出来ない、だからこそボラ研修を実施しているのです。

このエコ活動ですが当初は酷い状況でした。特にプロ野球は席の下はごみで一杯だったものです。5年かかり今はなくなってきた、休憩時にエコステーションで分別してくれるようになってきました。サッカー場の例ですが、ごみの減量作戦からはじまって、先ず、ごみのサンプルを調査し現状は 60%くらいがリサイクルされています。プロ野球では楽天イーグルスで初めてエコステーションを設けました。現在はマイカップ導入など観客の意識も変化してきていて清掃費も当初比 25%になってきています。また、プロバスケットの場合も同じ展開を実施しています。

ボラ活動ではお客様の案内なども、取り入れて改革してきています。仙台のボランティア活動が比較的うまくいっているのは、何処でも同じスタイルで活動している事が良い結果となっていると考えています。



### 第一 G より

- ・福島はプロが未だ無いこれから加入する方向であるが、現在は何でもやっている状況です
- ・スタッフ的な立場で会社組織にボラはお任せです。＜各担当県の事例説明＞
- ・結局、課題はボラの新人がいないのと？外部から入れないかも？

### 第二 G より

- ・プロバスケットに興味がありました。仙台でのモチベーション維持の方法は？
- ・チームが勝つ、歓び、悲しみは大きい、ボラ経験者のみ味わえるのは、ボラの楽しい所。



- ・ボラに初めて参加して、きつい作業であると、その後参加しなくなる現象があり、これからの課題です。又お客様からありがとうなどと声がけされると、非常に嬉しいものですが、逆パターンもあるがそのときは侘しいものです。
- ・まずはボラファンを増やす事が大事であると考えています。



### 第三 G より

- ・ボランティアの長所として、幅ひろい交流が可能であることや、年配者と接して社会経験も豊富になることがあげられます。
- ・ボラの短所として、自発性・無償性ということもあり長くモチベーションを保つのが難しく、何かモチベーション維持の目的を見つけてないとそれきりということがあります。
- ・まとめ役がいないと活動が難しいと思います。参加する人に明確なテーマが無いと続かない。
- ・事例としてボラをバスで送迎した事もありました。今後の課題は新人にどの様に伝えていけるかだと思います。

### 第四 G より

- ・長所は、組織として幅の広い年齢の方々に活動すると人脈ができ社会人として助かります。
- ・短所は、休日活動が多く家庭サービス等が難しいことで活動人数も伸びないことです。
- ・モチベーションをあげるに選手との交流などもあると思います。
- ・今後は家庭サービスも出来る環境作りなどの対応が必要だと思います。

### 第五 G より

- ・広島では外郭団体の下にボランティア組織が構成されています。組織が外にあるという意味ではやや仙台のボラのやりかたに、似通っています。
- ・新潟ではボラの意見がなかなか上がらず、又人数も 20 人前後での活動になっています。
- ・新潟では 6 つの団体を担当しています。秋田はいかにスムーズに運営が出来るかが注目されます。

### 閉めの挨拶

ボランティアのサポートを確保するのが大事です、ボランティアがボランティアをサポートすること、新人にはベテランが指導することでボランティアの定着化がはかれると思います。

**第2分科会 第2班「スポーツボランティアの連携」** 宮城スタジアム競技運営室

15:30~17:00

参加者29名が5つのグループに別れ、簡単な自己紹介のあとリーダーのコーディネートのもと情報と意見の交換を行いました。 < 以下、各班報告を列記 >

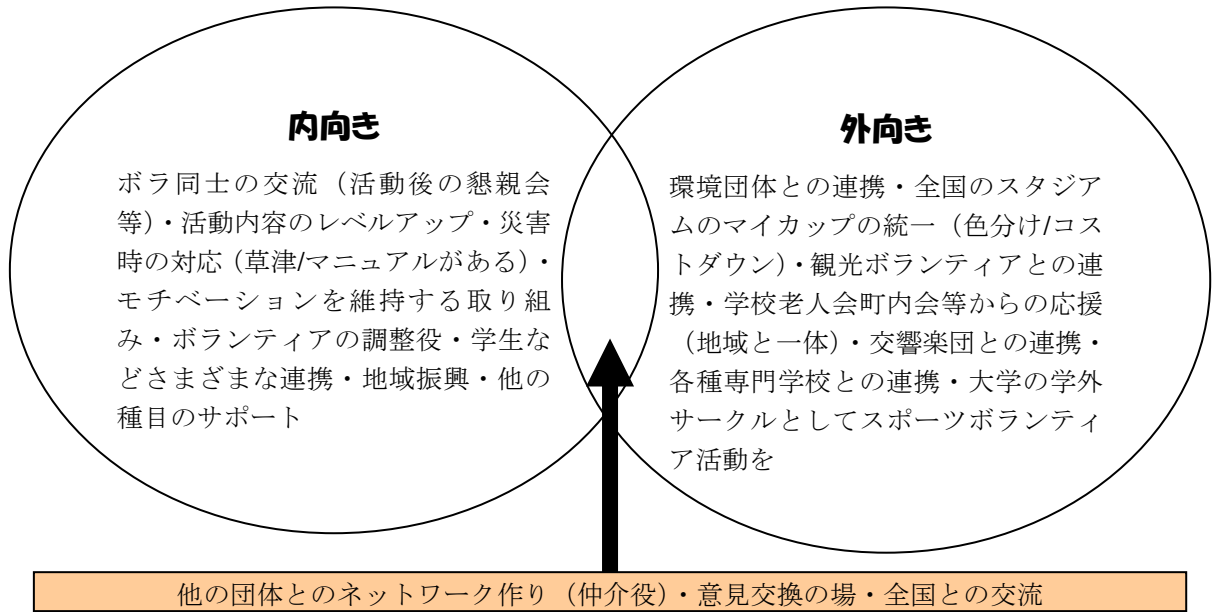
【各グループ参加地域一覧】

| 牛たん | 萩の月 | ずんだ | 笹かま | 冷やし中華 |
|-----|-----|-----|-----|-------|
| 静岡  | 静岡  | 大阪  | 栃木  | 山形    |
| 栃木  | 千葉  | 新潟  | 山形  | 宮城    |
| 山形  | 山形  | 山形  | 新潟  | 新潟    |
| 新潟  | 新潟  | 宮城  | 宮城  | 宮城    |
| 宮城  | 宮城  | 宮城  | 宮城  | 福島    |
| 宮城  | 宮城  |     | 東京  |       |



共通テーマ「**スポーツボランティアの連携**」

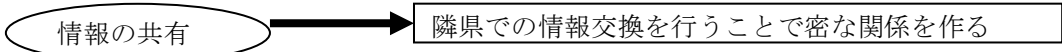
<グループ牛たん>



<グループ萩の月>

- ◆ 他のチーム・競技のボランティアをしたい・してもらいたい  
⇒ いろんなことが見えてくる、ただ、敷居が高くついてきてくれる人がいない
- ◆ 敷居は思ったほど高くない ⇒ 顔をあげよう・情報を増やそう・まず行動力
- ◆ 地道にアピールしよう ⇒ ML・掲示板・口コミ  
楽しみを知っている人が増えれば、どんどん広がる

連携して出来ること



↓ チームの情報も他チームの情報もわかる  
**「地域別サミット」を各地で!**

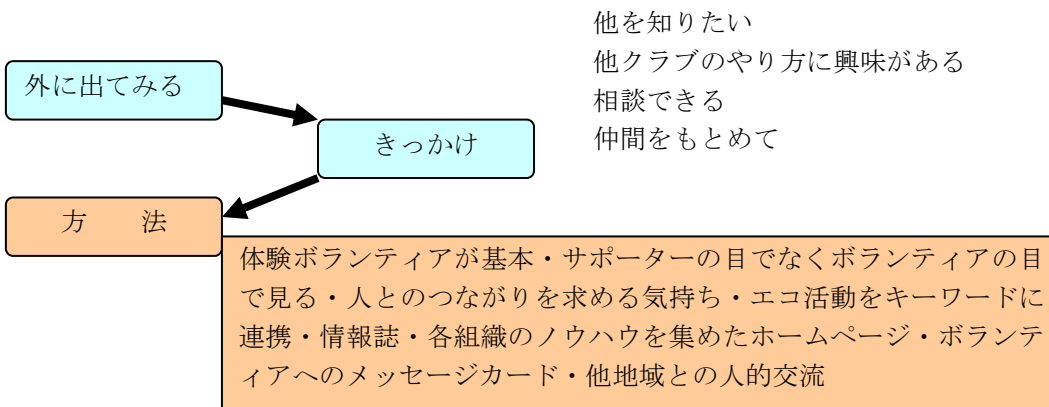
### <グループずんだ>

- ◆ 災害時などに行政の枠を越えて助け合う（人的支援・義捐金など）
- ◆ 地域イベントに枠を越えて参加する（企画作りが大切）
- ◆ 競技にとらわれずブロック別の定期的な交流を行う
- ◆ スポーツボランティア以外の楽しめる交流の場（ボーリング大会など）
- ◆ サッカーのオールスターのような全てのチームが参加できる大会の開催

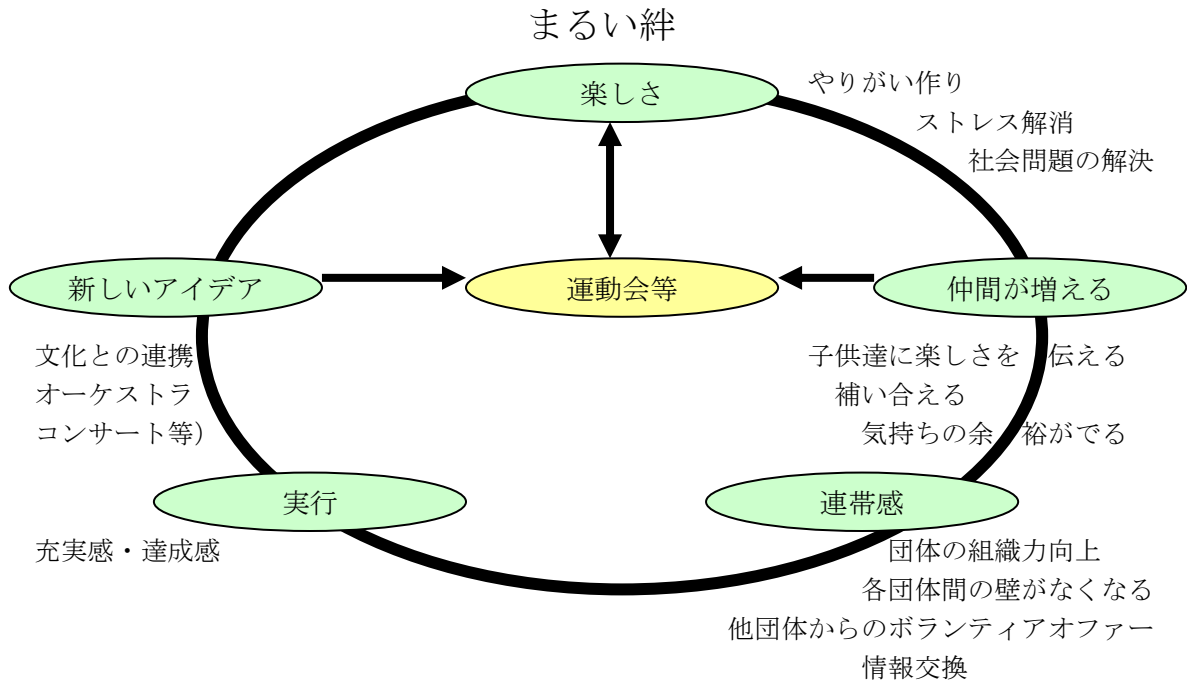


### <グループ笹かま>

ボランティアの連携について興味を持ってもらうためには



< グループ冷やし中華 >



ひとつの方向

多くのボランティアが自費で宮城に集まりました。その積極的な姿勢は「熱い思い」となって分科会の報告に表れました。**種目を越えた情報の共有や交流・地域の環境や文化団体との連携・災害をはじめ地域課題への取組み**など、個人や単独の組織だけではなく全国やさまざまな地域の組織と連携することで、多様な可能性が見えてきました。

一方で、様々な**取組みやとりわけ成功事例の共有・地域間をつなぐ交流の場**の必要性も多くのグループから提起されていました。これは「やる気」があればあるほど、その気持ちをどう運営組織や仲間のボランティアと共有するか、というテーマの実現が現実には簡単ではないため、同じ思いを持つ人々が互いにサポートし合える仕組みとして求められていると考えられます。無償性・自発性の強いボランティア活動では、最後は活動を継続する強いモチベーションが大切になります。「スポーツボランティアの連携」として大切な要素のひとつはこの「**モチベーション維持の仕組み作り**」ということもできそうです。その仕組みがこのサミットから作れたら、心からそう思います。



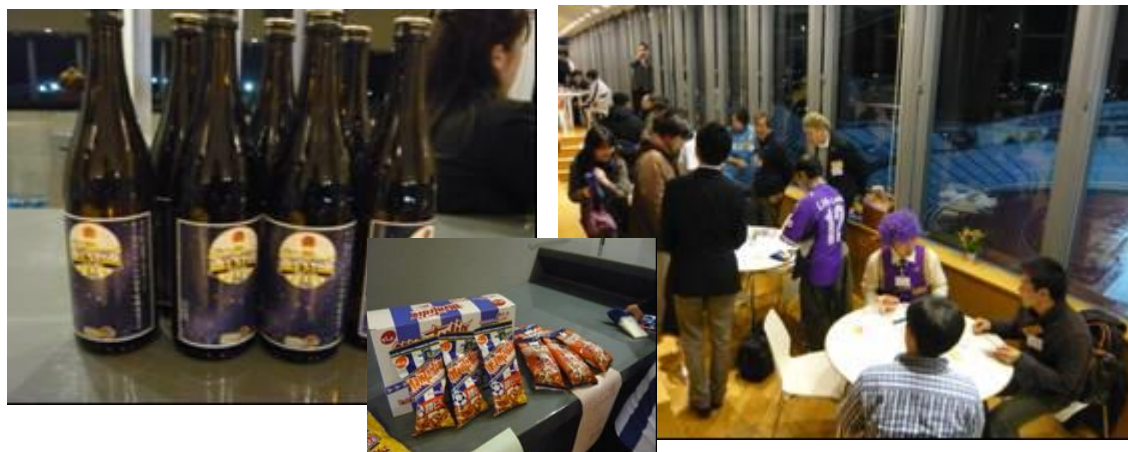
## 懇親会 宮城スタジアム6F展望室

18:00～20:00 参加者約80名

第2分科会が終了後、18時より東北大学で開催されていた「第1分科会」「第3分科会」の参加者を加えて、「bjリーグホームタウンミーティング」「東北スポーツボランティアサミット」共催での懇親会が開催されました。真剣な話し合いで交流を深め、ここではもっと気軽に飲み、かつ食べながら楽しく語り合います。事前にテーブルのセッティングや飾りつけをしてくれたのも同じボランティア仲間、手作りの企画です。



会場は宮城スタジアム最上階となる展望室、専用のエレベーターで来場し会場に着くと多くの人の口からほう、という歓声があがる。眼下にカクテル光線に照らし出され広がるスタンド、かなたに見える仙台港の明かり、明るい会場がまぶしく感じます。





外は冷え込む時間、会場は顔なじみ同士、あるいは違う地域・種目の人々が笑顔で語り合います。



途中、参加組織の紹介やサポートするチームは違ってボランティアというつながりから結婚したボランティアの仲間たちの紹介もあり、参加者から大きな拍手が送られた。懇親会はグランディ・21 ボランティアと施設の協力があったあたたかい余韻を残して無事に終了することができました。

**bjリーグ・オールスターゲーム・ボランティア活動** セキスイスーパーアリーナ  
1月31日(日) 7:30~17:00 サミットからの継続参加者51名  
ボランティア総数 141名

参加地域一覧 新潟・栃木・千葉・大阪・茨城・山形・秋田・福島・宮城 (順不同)

リーグで4度目となるプロバスケットのbjリーグのオールスターゲーム、会場はほぼ満員の約6,000名の観客で埋まり、ダンクコンテスト、3ポイントコンテスト、さまざまなショーや全国から選ばれた選手たちの華麗なプレーで盛り上がりました。各地から参加したボランティアも地元のボランティアと一緒に積極的に活動、長時間のイベントを支えて頂きました。全てが終わった瞬間、ボランティア控え室でのみなさんの笑顔が最高でした。心より感謝申し上げます。

